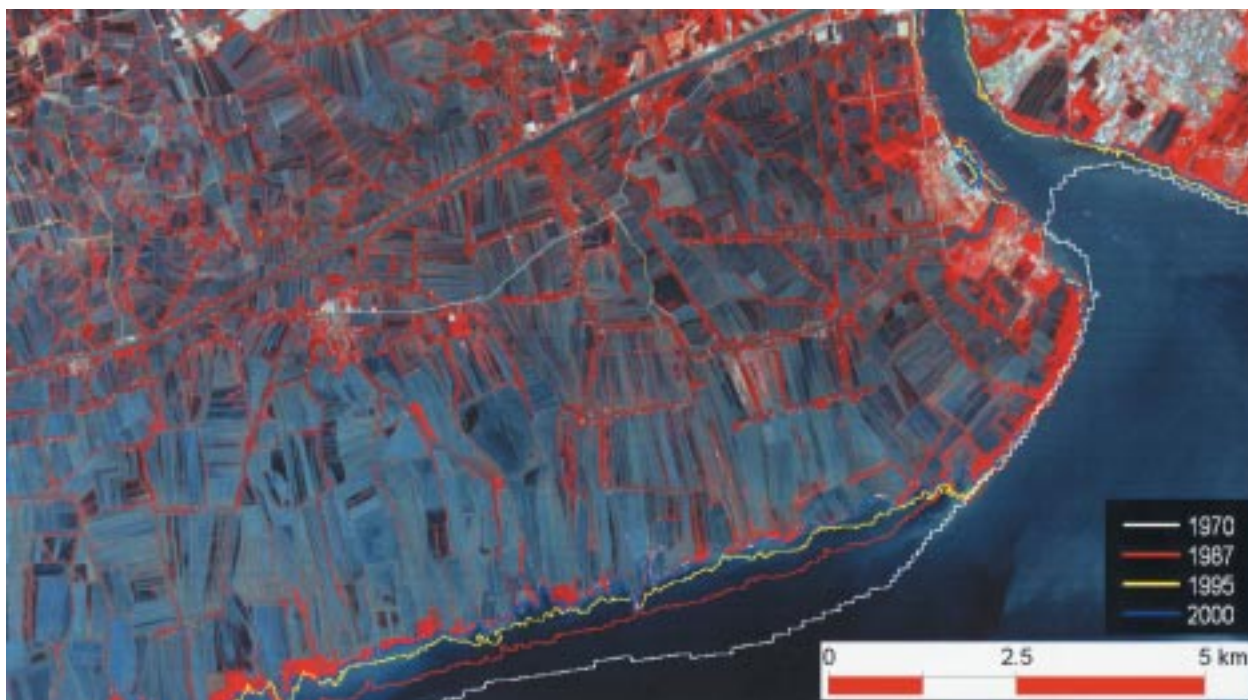


タイのエビ養殖場跡付近での海岸浸食の実態

＜大久保泰邦＞



1. タイ、プーケット島北のパンガ湾に広がる大マングローブ林。パンガ湾の大マングローブ林は国立公園に指定され、自然が守られている。
2. チャオプラヤ川が流出するタイ湾頭の海岸。チャオプラヤ川河口は、かつて大マングローブ林が形成されていたが、現在はわずかなマングローブを残すだけで、不毛の地となっている。



3. 2000年のASTER画像と1970-2000年間のチャオプラヤ河口西岸の海岸線変動(風間, 2003). 1970年の海岸線は、1960年代の空中写真から作成したと予想される1991年出版の5万分の1地形図による。また、1987年から2000年の海岸線は最新の人工衛星画像の分析による。河口西側の海岸線の後退が著しい。大きいところでは過去20年間に1km以上の後退が起こっている。



4. 2001年10月1日にヘリコプターに搭乗してビデオカメラでチャオプラヤ川河口を撮影した時の航跡, ASTER画像(2001年9月18日取得)とビデオスナップ写真(風間, 2003). マングローブはASTER画像上赤色で表現されており, 海岸線と水路両岸に帯状に連なっていることが分かる. 写真では一部は高波のためか, 陸側に押し倒されている. また電柱が海岸線から数百mも沖合に取り残されている様子や寺が海の中に孤立している様子(A)が見える. マングローブの海側には数百m幅の干潟が存在することも分かる.



5. 海岸浸食の激しい場所では, 住民が内陸側に移住し, さらに資金を出し合って岩を積み上げて護岸を作っている. しかしデルタ堆積物が厚く覆う場所のため, 岩は沈下し, 崩れ, 何度も岩を運び積み上げることになる.